

旋盤加工の技術向上の基礎的実験

精密機械技術科 主任講師 弓削 慶祐

旋盤加工工程の最適化、表面粗さ向上に関する取組み

今日、高校生や若年技能者の技能レベルの向上を目的としたものづくりに関する大会が毎年多数開催されている。機械加工関係では、旋盤やフライス盤といった工作機械を使って制限時間内に課題を製作し、その寸法公差や幾何公差を競うものである。成績上位者は寸法公差内に寸法を入れることは当然であり、加工面品位の差によって入賞が左右される。また、表面粗さに関する精度不良は、製品の光沢や仕上げなど人間の視覚によって評価される外観的な不良にとどまらず、組み立てられた製品のはめあい、締めつけ力などの部品機能の低下を招くことがある。

そこで、旋削加工による表面粗さの向上や加工工程の最適化について、取組みを行っている。

